

信州・北信濃 観光活性化座談会

観光資源に磨きをかけ 積極的な情報発信で集客を!

スキー 温泉 外 一 泉 ノーモンキー 外 寮

長野県北信濃 志賀高原や湯田中・渋温泉をはじめ、戸隠黒姫などを含めたエリアを指す。豊かな自然環境に恵まれ、スキーや温泉を楽しむために多くの観光客が訪れていた。しかし、景気の冷え込みやスキー離れなどもあり、かつての勢いはなくなっている。北信濃の観光活性化に向け、観光振興に力を入れる意気込みを伺った。(10月、湯田中温泉・茶のこみち美湯の宿で)

北信濃の魅力といえはスキーと温泉だが、最近の状況は、志賀高原は日本屈指の大スキーリゾート地だが、スキー人口の減少でスキー場を取り巻く環境は極めて厳しい。1998年2月に開かれた長野オリンピックで道路は良くなり、一時期スキー客は増えたものの、今ひとつの状態だ。影響は宿泊施設にも出てくる。また、景気の冷え込みで、新年会などの予約も伸びない。スキーについては地元の子供もあまりやらなくなってきた。将来を考えると非常に不安だ。

出席者(順不同)

- 民主党衆議院議員 氏 孝氏
- 一茶のこみち美湯の宿社長 氏 孝氏
- ホテルホウリス志賀高原社長 氏 孝氏
- 志賀高原オリンピックホテル社長 氏 孝氏
- 地獄谷野猿公苑社長 氏 孝氏
- 白銀屋商店店主 氏 孝氏

原須本節山 篠山竹節山

司会・内井高弘本社編集長

原須先生は農水省出身で観光と直接関係がないが、北信濃の魅力がどうとらえているか。



篠原 孝氏



齊須 正男氏

動き回る若者や車に多彩な都心から豊かな自然を求めてやって来る人々は一週間単位で宿泊し、パカパカとエンジョイする。北信濃の自然は四季を通じて美しく、ここにはない景色がある。フランスの農家の形態がこれからの北信濃観光を考える上で、一つのヒントになり得るのではないかと。

山本(良)さんは湯田中温泉の名物の一つ、温泉まんじゅうを作っているが、商店主の立場から見て、現状はどうか。

仏の農家民宿参考に 篠原氏 5軒協力し質高いサービス 外客で減少をカバー 竹節 稔氏

外国人が来ることに慣れて教えられる面も少なくない。特に欧米人は旅の楽しみ方を知っている。例えば、スキーモンキーを見るには入口から20〜30分歩かなければならない。積雪時がかなり大変で日本人は敬遠しがちだが、欧米人はそれは楽しむ。志賀高原もそのうちだが、草津温泉や軽井沢、上高地、箱根などは外国人が有名にした。我々日本人なら見過ごしてしまうものが、彼らに



山本 孝氏



竹節 治男氏

中には文化・史跡めぐりなどこの地域ならではの見どころを紹介している。観光資源はまだまだ埋もれている。これらを掘り起こして、魅力を付けて観光客にPRしていく努力が欠かせない。

山本(良) 確かに、業種の枠を超えてホテル・リゾート的なサービスが求められる。旅館・ホテルのホーム・ムーブメントの中に、周辺の食事処や名所などに飛ぶホテルを作ってほしい。ユーザがそこをクリックするだけで情報が簡単に手に入ればアクセスも増えるのではないかと。

スノーモンキーで外客集客 日本猿で発展に貢献 竹節 治男氏

多岐と聞く。竹節(治) 現在、約200匹の二ホンザルが生息している。サルが霧天風呂に入る姿は非常に珍しく、長野オリンピックの取材で訪れた米国のメディアが各国のメディア、母国にも紹介した。その後、タイム誌に「スノーモンキー」として紹介され、それらがきっかけで海外からも注目を浴び、観光客が増え始めた。年間入浴者は約10万人で、冬場には来客者の半分が外国人で占めるほどになっている。最盛期は1989年ごろの20万人に比べると減ってはいるが、外国人もコンスタントに訪れている。そこそこ人気なわけではないが、最近ではヨーロッパ、オーストラリア、ロシア、中国からの客も増えている。



竹節 稔氏



山本 良一氏

「スノーモンキー」 温泉に入る猿が外客に人気

竹節(治) 幸いなことに、今は放つておいても外国人は来てくれるが、より満足したくなるように、我々も考えなくてはならない。旅館・ホテルさんの期待も大きく、PRレシーもあがる。発展のために頑張りたい。

竹節(治) 幸いなことに、今は放つておいても外国人は来てくれるが、より満足したくなるように、我々も考えなくてはならない。旅館・ホテルさんの期待も大きく、PRレシーもあがる。発展のために頑張りたい。

竹節(治) 幸いなことに、今は放つておいても外国人は来てくれるが、より満足したくなるように、我々も考えなくてはならない。旅館・ホテルさんの期待も大きく、PRレシーもあがる。発展のために頑張りたい。



地獄谷野猿公苑

「スノーモンキー」 温泉に入る猿が外客に人気

ゆるグリーンツーリズムを率先して行うべきだ。冬の志賀高原も確かに魅力だが、私は春夏秋冬の方が打ちかかると思っている。高原を中心に農村地帯歩き、体験する観光を関係者は考えてもらいたい。そういうところにお金を使ってもらいたい。フランスの農家民宿、スイスの山岳観光などは参考になるのでは。